

古刹 善寶寺参詣と

山形の旅

善光寺旅行会 団長 熊谷 豊太郎

六月十六日、早朝黒田住職以下男性二十二名、先代住職倫子夫人他女性二十一名計四十三名。羽田空港より、一路庄内空港へ。庄内平野は、全天、青の世界。早速保春寺大八木ご老師の温かい出迎えを受け、約二十分のち鶴岡市内へと。いかにも空港敷地内に位置するような龍澤山善寶寺へと導かれる。寺は延慶二年（一一三〇九）、大本山總持寺の二祖である峨山禪師が開祖として開く。供養と祈祷の寺。また求道と修行を實踐する専門僧堂として過去幾多の名僧、高僧を輩出。現在十七名の雲水が修行に明け暮れる。ここ龍王殿には龍神様がお祀りされ、ご祈祷、

祈願のご利益あらたかを希う。漁業、海運関係者の信仰が篤い。西の琴平金比羅さま、北の善寶寺龍神さまといわれる所以です。域内には龍神さまが身を潜めたといわれる貝喰の池。かつて人面魚の棲息で話題沸騰。全国にその名を馳せる。時折人面魚が愛嬌をふりまき、みなさん悦び拍手喝采。

彼の藤沢周平氏の小説「龍を見た男」にも登場。また「善寶寺物語」と謂う作品もあるようで、近々完成する藤沢周平記念館でも紹介されるとのことでした。一行は数百年の杉巨木を背に、高さ三十八を超える「魚類一切供養塔」と称する五重塔を仰ぎながら水屋で身心を清め、いざ山門をくぐる。さらに九十六の石段。登り詰めると、そこにはおいかぶさるように本堂感応殿が広がる。静寂に包まれ引き寄せられるように本堂へ導かれ、やがて一行は心静かに順々と着座する。

正面にご本尊を祀る莊嚴華麗な祭壇のもと、左右に僧衣鮮やかな大勢の僧侶。檀信徒代表の請い願う諸々、そのご祈祷を肅々と、斉藤信義ご住職のご導師によって、厳修賜ることができました。のち奥の院神靈殿に参拝。恙無く所定の供養祈祷会を終了することができました。

間もなく信徒会館に案内され、見事な座布団が並ぶ大広間。斉藤山主さまのもとお茶の接待をいただく。茶席でのご法話。『慈悲の坐禅を生きる』という猥下のご本より。艱難辛苦のご修行時代、寒行托鉢の最中、おばあさんに手ににぎられ、その両手で包んでさすって温めてくれた、あの手のぬくもり。これこそ感応道交。師の今日、原点となっている「慈悲心の尊さ」について、真の宗教とは經典ではなく、仏行の実践だと熱くお話くだされまして、ありがたいことでした。

斉藤信義猥下は善寶寺四十一代目のご住職を

兼ね大本山總持寺副貫首に在り、また仏教の国際交流に貢献する事業として成寿山善光寺留学僧育英会の名誉顧問として当初より関わっていただいております。この度、私共のご訪詣には、自ら指揮。全山挙げての歓迎を賜わった次第です。また先に空港にお出迎えいただいた大八木ご老師は大圓武志大和尚と駒沢大学同期生であり、知己の間柄。善光寺にはよくお運びいただき、お世話になっていきます。一行を是非にもと保春寺にお招きいただきましたが、時間の都合で参詣できず、保春寺門前通過中のバスの中よりお詣りさせて頂き、合掌低頭。ご住職は門前にて大きく手を振りお応えくださいました。ご老師は善寶寺の寺務の役割も兼ね、ご多忙のなか終始温かいおもてなしやお心遣いを賜わり、厚く厚く御礼の次第です。一行は駆け歩き、出羽三山の一つ、羽黒山神宮へとすすむ。日本最古といわれる五重の塔をのぞみながら、三神合

祀殿に拝登。ここ羽黒山は古来、全山古修験場として夙に有名です。

さらに酒田市へとバスは向かう。北国と西国間の貿易、いわゆる北前船で日本一の豪商といわれた本間様の旧本邸を訪ねる。「本間様にはなれないけれど、せめてなりたや殿様に」。随所にその面影を観ることができました。そのすぐそばに「おしん」で有名な山居倉庫。船着き場や米倉庫を散策しながら、遠くを偲んでおりました。第一日目の旅程もこれにて終了。

やがてバスは陽の傾くころ、湯野浜温泉へと向かう。場は日本海を一望できる最景勝地。露天風呂で疲れと汗と埃を流しながら極楽極楽の気分。身心共にすつきりと致しました。

宴席に突然の吉報。狛下様をご臨席くださるという。三筋の川並びをコの字型へと変更。異例ともいわれるご臨席のなか開宴。一行の喜びも最高潮。なんともありがたいことです。狛下

は実に穏やか。寺院で観る龍の蟠る凜々たる気魄は、すっかり消えて終始和やかなご容姿。御年九十一歳。「私はネエ、宴会はみなさんが楽しんでるから好きなんですヨ」とおっしゃる。「私がここに坐しているのは、大圓和尚の功德なんですよ」といわれ、ここでもまた改めて、大圓さまの庇護のもとに在る檀信徒一行、そのお蔭に唯々感謝合掌でございました。

翌十七日は通称山寺、宝珠山立石寺に向う。参詣者は千十五段の石段を登り、奥の院へ。また別組はこの山寺で吟じたという「閑けさや巖にしみ入る蟬の声」の名句、芭蕉会館を訪ね、昼ごろ追いつ追いつ山荘へと集結。たのしく山菜料理をいただく。席々懐かしい陣中見舞いのお方。山形市・高松寺住職、福田孝雄ご老師とそのご子息、智昭さん。善光寺とは、とてもご縁深きお方。皆さんも再会をよろこびながら、短い時間の忙しい懇談でした。やがていよいよ最終コ

ース。みなさん楽しみにしていた「さくらんぼの喰い放題」。いまが旬。鈴なりに熟れた大粒をむさぼり、ほっぺたまで赤く熟し顔。流石天下の「佐藤錦」でした。充たされた善男善女、満足して山形空港へと急ぐ。定刻羽田空港へ。想い出を胸に最高のフライトでした。二日間すべて順調。なにひとつ障りなく護られての旅でした。殊に宗派の頂点、斉藤猥下よりのお持成し、大八木ご老師、福田ご老師方の篤いご縁は、これすべて大圓武志大和尚のお計らいと思召し、ほんとうにありがとうございます。またこのたびは大圓和尚令夫人もご参加。蔭に陽にお心配りを下さいました。

また旅行社の小林課長さんの細かい気配りにも感謝です。いまこうしてペンを執りながらも想い出尽きず、内容の濃い充実感に充ちたこの度の旅行でした。ありがとうございます。



山形旅行 雑詠

善光寺護持会会長 国廣 敏郎

庄内空港に下り立って、早立ちの眠気がいっぺんに覚めた。北に残雪輝く鳥海山、遙か南方に羽黒山、月山、湯殿山の出羽三山。磐梯朝日国立公園である。

鳥海の雪溪まぶし最上川

ありがたや三山神社の雲の峰

日本海の夕日が拝めるといふ。宴会を中座して海岸に駆けつけた。

夏の雲映える落暉の日本海

芭蕉句碑のある立石寺の小広場から見上げる千百段余の参道もほんの途中までしか見えな
い。あとは万緑と岸壁の中に消えている。

青嵐ひたすら登る磐の道

最後は天童でさくらんぼ狩りを楽しむ。手のとどかぬ梢の先の方に宝石のようなさくらんぼが
びっしり。

仰ぎ見る夢一杯のさくらんぼ

善寶寺参拝の旅に

参加させて頂いて

稗田 妙

三月も終わりのある日、横浜市在住の弟から

「善寶寺参拝の旅」の知らせが飛び込んできました。待つてましたとばかりに是非参加の意を伝え、即、神戸の姉にも連絡し、その日の来るのを待つていました。

送つていただいた行程表にワクワクしながら機上の人となり、晴れわたった青空のもと、庄内空港に着き、鶴岡市龍澤山善寶寺にお参りとなりました。

立派なお寺、全山伽藍をなすというか壮大さに驚きの目を輝かせ、ご案内の言葉に耳をそばだて、ありがたくお参りさせていただきました。

荘厳な大法要・ご祈祷にひたすら身も心も洗われる感動にひたり、仏のありがたさに全身を包みこんでいただいた思いでありました。

斉藤副貫首様のご法話、さらに宴席にまでお出ましになられ親しく接して下さったお姿に、感謝の気持ちいっぱいです。

今はこの気持を忘れずこれからの人生に副貫

首様の著書、尊いご本を読ませて頂き、生まれてよかった、生きていてよかったという思いをさらに大きく、意義ある日々を過したいと心に誓つてお礼の旅とさせていただきます。

ありがとうございます！

合掌

オーラとご利益を感じた

山形の旅

堀 貴子

今流行の「オーラ」「靈感」、幸か不幸か、私はいままで見たことも感じたこともない。しかし今回山形の旅は、何度もこのオーラを感じ、鳥肌の立つ経験をしたのです。これが神仏の発する霊妙なのか、私の肌が感応したことを覚えます。

曹洞宗大本山總持寺副貫首齊藤老師様の行往坐臥あらされる古刹善寶寺。凜として、静けさの中に力強さを感じる、立派で上品で荘嚴な寺でした。

齊藤老師様は、私達の待つ本堂へ風のように飄として現れ、ゆつくりともの静かな動きの中に、九十一歳とは思えないパワーを発散。鈍感な私でも鳥肌が立つオーラを感じるのです。私はそのお姿を拝見し、限りなく近くへと、坐する場所を何度もずらしていたのです。

読経の後、お茶席へと案内されました。お茶を淹れて下さる雲水の方々、その立ち居振舞い、見事です。碗を持つ手、指の先、布巾の運びしぐさは、ゆつたりと流れるようにどこにも無駄がありません。実に美しい。私はただうっとりとお見惚れてしまいました。

やがて寺を後に、落陽日本一と名高い湯野浜温泉「いさごや」へ。わあゝ温泉だあゝ。うれ

しい。窓から飛び込む日本海。温泉に浸りながら太陽を拝む。天空より海へと沈みゆく夕陽。こんな贅沢な時間を過ごせていいものか、ただただ感謝し手を合わす。

さあ宴会。美味しい食事に少しばかりのアルコール。いい気分です。

父がマイクを手にカラオケ三昧。はずかしいやら心配で見えていられないのです。今回も父と一緒に参加させていただきました。皆様から親孝行娘とホメられる。これは私の役得。母亡きあと、寂しい父が気になります。うれしい勘違いをしていたら、有難うございます。

楽しい時間は過ぎるのが早い、齊藤老師様程なくご退席のとき、格段そのままに見送りなきようにとのご配慮。私はその後姿を遠くから、動くオーラに手を合わせ、全身が吸い込まれそうで、涙が出てしまいました。

二日目は蟬しぐれのなか山寺「立石寺」へ。

石段千十五段を奥の院まで。私は若い方なので
余裕があると思ったのが間違いの元。辺りを眺
める余裕などありません。私より年配の方々にも
追い越され、スタートの時、後ろを歩いてい
たはずの父にも追い越される。父の元気さに安
心する一方、自分の衰えを痛感した次第です。

三十分ほどで、奥の院へ到着。達成感で一杯
でした。仏前にお線香をたむけ、母の浄土と父
の健康を願い、そして少しばかり自分の都合の
いいお願い事もしてしまいました。きつとご利
益はあるでしょう。帰りは胸をはっておしゃべ
りをしながら楽しく、アツという間でした。

さらにさくらんぼの食べ放題という果樹園
へ。甘く大きいさくらんぼを一杯頬張ることが
できました。帰りは高級佐藤錦を両手にズッシ
リ買い求め、機内へ。楽しかった刻々、とても
密度の濃い経験をさせていただきました。

次回は父のカラオケも上達、私はさらに仏教



の尊さに埋没してゆくことと思つています。有難うございました。

佛縁を想う

横浜やすらぎの郷霊園所長 伏見 邦弘

佛縁の旅に参加させて戴き、三度目となりました。

私と大圓武志方丈とは幼稚園からの同窓。六十有年の間柄です。

成寿山善光寺との関わりは、武志方丈と倫子さんとの結婚式に始まります。四十年余り前でしょうか。

しかし、或る期間勤めの関係で、佛縁など凡そ途切れてしまいました。

そんな或る日、突然の電話。「お前、生きとるか。よかった。実は霊園を建設している。明

日、関連の開発会社と石材組合との会議があるのだが、出席願えないか。できれば霊園の応援を頼みたい」と。私が第二の人生を踏み出して間もないころのことです。すべて一方的。

自前の霊園を持つことは、それこそ一大事。方丈には否といえない知己。言われるままに承知。無能、微力の者ですが、お役に立てるのであればと引き受け、第二の人生が始まりました。無我夢中で手探りの日々。早いものです。あれから十一年、やすらぎの郷と共にあります。

これも佛縁。開園時の若木も今は鬱蒼と茂り、草花も四季折々に霊園を彩り、参拝者の方々に癒しと安らぎを与えております。

順々と第二次、第三次拡張工事も済み、方丈の理念に基づくやすらぎの郷は、落ち着きのある霊園に成長して参りました。

この度、山形への旅では是非にもお逢いしたい方がおいででした。善寶寺の重鎮、保春寺住

職の大八木老師。庄内空港に降り立つと、早速
お出迎え。多忙な方なのに、早朝より何ともあ
りがたいやら、びっくりするやら……。檀信徒
一同、大感激でした。

善寶寺はまさしく東北の最古刹。大本山總持
寺副貫首でもあります齊藤信義住職自ら導師を
戴き、法要を賜りました。誠にありがたいこ
とです。

副貫首様は善光寺育英会の名誉顧問であり
「育英会は世界を見据えた人材育成の会として
比類なきものである。私としてもさらに支援し
ていきたい」とのご法話をいただきました。

副貫首様自らがご丁寧な一服のお茶をいただ
きながら、感動感謝のうちに退山となりました。
夜、檀信徒の宴席にも、お忙しい中、ご高齢
を押してのご臨席。武志方丈とのご縁とはいえ、
誠に有難く、めったに得られない幸運。鳥肌が
立つ感激をいただいたのは私ばかりではなかつ



た。

重々にも、大八木老師の二日間に互るお心配りには唯々感激し、頭の下がる思いでした。

流石、大圓方丈が心の友として久しかったことに納得させられ、私もまた友人の一人として羨ましささえ感じました。

大八木老師の山中待ち伏せでのお見送りに、車中合掌、涙の出る思い。やがて山寺立石寺へ。昼食会では思いがけなく尊いお方が。今は山形市・高松寺住職、かつては善光寺にいらした福田老師と、ご子息・智昭師。元気なお姿を拝し、大拍手と合掌。旅団を労い、お土産まで頂戴し、感謝感謝でした。

一昨年、大乘寺拝登の旅、昨年の本寺光眞寺参拝の旅、そして山形路、この間出逢った皆様方、大圓方丈との知友とは申せ、訪ねる檀信徒に心尽くしのおもてなしをいただくなど、武志方丈の佛縁と絆の尊さをこの上なく痛感した旅

でもありました。

旅が続く限り私は参加し、限りある人生を尚深く佛縁によって歩いていきたいと思っています。

拝



